

第3号

令和5年

7月19日(水)

# 巣立ち

加東市立社中学校

生徒指導通信

発行者

(生徒指導)

## 夏休みは絶好のチャンス

### ～自分「を」自分「で」磨きましょう～

7月20日で、1学期が終了します。1学期は、それぞれの学年で行事がありました。3年生は「修学旅行」がありました。平和についてしっかり学習するとともに、初の宿泊を伴う行事で協調性を育むことができました。2年生は1学期の総合で“働くこと”について考えました。職業新聞を作り、「ものづくり体験」では匠の技を実際に見て、2学期の「トライやる・ウィーク」へつなげます。1年生は「わくわくオーケストラ教室」へ行きました。入学して間もない行事の中で、班行動の楽しさ・難しさを経験するとともに、生のオーケストラを間近で見て聴く、貴重な体験をしました。

この1学期で、みなさんはどのような力をつけ、成長しましたか？

さて、21日から夏休みに入ります。夏休み前は、どの人たちもみんな新鮮で前向きな意気込みをもっています。しかし、長い休みの中で、小さなアクシデント（怒られる。けんかをする・・・等）に心が折られたり、継続性に欠けたり（三日坊主で終わってしまう）ということは、振り返れば多々あるものです。

そうならないために、夏休みに達成したい目標を絞り込むことが大切です。伸ばしたいポイントを徹底的にフォーカスして、自分磨きの充実した夏休みにしてほしいと思います。



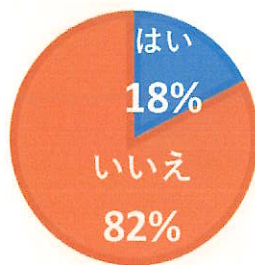


## 中学校生活アンケートより ～社中学校の生徒の校則への意識状況～

先月、生活部校内より生徒のみなさんが社中生の校則に関する意識についてアンケート調査を行いました。その結果を掲載します。

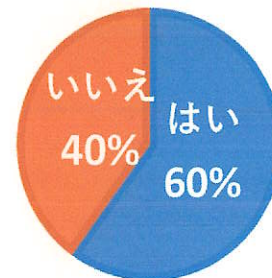
4月以降の社中学校では、不要物（スマホ等）を持ってきている、シャツの第2ボタンまで開けている生徒がいる（男子）・制服のスカートが短い生徒がいる（女子）、名札をつけていない、叩いたり掴み合いをしたりするけんかがある、SNSによる嫌がらせや不適切な投稿がある等、これらが複数起きているという現状があります。

正直、校則はちょっとぐらいやぶっても良いと思っている。



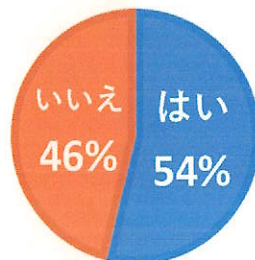
約5分の1の生徒は校則は少しならやぶっても良いと考えている。

校則を変えてほしいと思っている。



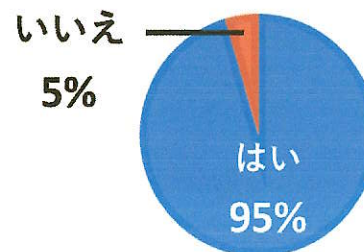
校則を変えてほしいと考えている生徒は、60%。40%はそのままでも良いと考えている。

不要物を持ってきている、目立つ校則違反をしている人をよく見かける。



半数以上の生徒が、不要物や校則違反をしている生徒を見かけている。

校則を変えるには、まず自分たちが校則を守るべきだと思っている。



ほとんどの生徒が、校則を変えるには、まず現在の校則を守るべきと考えられている。

近年「ブラック校則」という強い言葉により、「校則」＝「ダメなもの」という風潮があります。しかし、全ての校則をないがしろにしてしまうと学校生活の中心である「勉強」や「心と身体の成長」に悪い影響が及ぶことも懸念されます。

「校則を変えるには、まず自分たちが校則を守るべきだと思っている」という項目において、95%の生徒が「はい」と答えています。この考え方が、大切です。

社中学校としては、“校則は、必要なもの。しかし、中には社会の移り変わりや社中学校の状況に合わせて変化させても良いものもある”という認識で、定期的に校則のアップデートを行っていかうと考えています。